

科目区分	専門分野	授業科目	成人・老年看護学実習Ⅱ (急性・回復期)
講師名	実習担当者	開講年次	2年2学期～3年2学期
単位数(時間)	2単位(90時間)		
<p>目的：成人・老年期で急性期から回復過程にある対象および家族の特徴を総合的に理解し、看護実践のための基礎的能力を身につける</p> <p>目標：1. 手術療法を受ける対象の全身状態を理解し、異常の早期発見と術後合併症予防のための援助がわかる  2. 手術療法に伴い対象に生じる身体的苦痛を理解し、緩和に向けた援助が理解できる  3. 術後の対象の回復状態に応じた日常生活援助が実施できる  4. 手術療法を受ける対象の危機的心理状況を理解し、緩和に向けた援助が理解できる  5. 手術療法によって生じた機能低下や障害の程度に合わせた対象・家族への援助が理解できる  6. 集中ケアを必要とする対象への治療環境と看護の実践がわかる  7. 看護者として必要な態度を身につけることができる</p>			
授 業 内 容			
<p>1. 手術療法を受ける対象の全身状態の理解</p> <p>1) 手術療法を受ける対象の機能障害の程度と日常生活への影響の理解  (1) 入院前の健康状態 (2) 入院前の生活状況 (3) 術前の状態の観察</p> <p>2) 手術療法を受ける対象の全身状態の把握と術後に予測される問題の理解  (1) 術前の全身状態の理解 (2) 麻酔や手術侵襲により対象に生じる生体反応の理解 (3) 術後ベッドの作成</p> <p>3) 手術室の治療環境と患者の状況  (1) 手術室の環境 (2) 入室時の看護の実践 (3) 麻酔導入時の看護の実践  (4) 手術中の看護の実践(直接介助・間接介助看護師の役割) (5) 手術終了後の看護</p> <p>4) 術後、対象に起こりうる異常や術後合併症の予測と観察  (1) 術後(帰室後)の対象の観察 (2) 術後合併症の発生要因 (3) 術後合併症の観察</p> <p>5) 術後、対象に起こりうる異常や術後合併症の予防と回復を促すための援助  (1) 術前訓練及び処置  (2) 術後予測される問題や合併症予防のための援助  (3) 循環器合併症(出血・DVT)予防のための援助  (4) 呼吸器合併症(無気肺・肺炎)予防のための援助  (5) 精神・神経系合併症(せん妄)予防のための援助  (6) 消化器系合併症(イレウス・縫合不全)予防のための援助  (7) 術後感染症(手術部位感染)予防のための援助  (8) 手術後の回復を促進させる治療・管理</p> <p>2. 手術療法に伴い対象に生じる身体的苦痛の理解、緩和にむけた援助</p> <p>1) 手術療法に伴う症状や治療に伴う苦痛(疼痛・発熱・嘔気・嘔吐等)を緩和するための援助  (1) 術後に生じる苦痛の原因 (2) 苦痛が生体に及ぼす影響 (3) 苦痛の鎮静・軽減方法</p>			

3. 術後、対象の回復過程に応じた日常生活援助の実施
  - 1) 術後、対象の回復過程に応じた日常生活援助
    - (1) 手術後の全身状態の回復過程や機能低下・障害の程度 (2) 生活習慣をふまえた日常生活援助
4. 手術療法を受ける対象と家族の危機的心理状況の理解、緩和に向けた援助
  - 1) 術前の患者・家族の手術に対する不安の緩和
    - (1) 術前オリエンテーション (2) 社会的側面の理解 (3) 対象の全体像の把握
    - (4) 看護理論（危機理論）の活用
  - 2) 術後から回復に向かう患者・家族への不安の緩和
    - (1) 手術後の経過や回復に対する不安への援助 (2) 関連職種との連携
    - (3) 術後の患者・家族の不安に対する支持的な援助 (4) 看護理論（自己効力感）の活用
5. 対象・家族の手術療法によって生じた機能低下や障害への適応、社会復帰に向けた社会資源の活用
  - 1) 患者・家族が手術療法によって生じた機能低下や障害を適応するための援助
    - (1) 各臓器や手術療法に伴って起こる形態変化に伴うボディイメージの変化や機能低下・障害について説明
    - (2) 患者・家族のボディイメージの変化や機能低下・障害に対する適応への援助
    - (3) 社会生活適応のための援助
  - 2) 社会復帰に向けた多職種連携によるリハビリテーション・退院指導・社会資源の活用
    - (1) 退院後の生活に適応するための多職種連携によるリハビリテーション
    - (2) 多職種連携による退院指導 (3) 社会資源の活用
6. 集中ケアを必要とする対象への治療環境と看護の実際
  - 1) 医療環境の理解
    - (1) 環境・設備の特徴 (2) 患者の身体的・精神的・社会的特徴
    - (3) 看護の特徴と救命救急センターの役割
  - 2) 身体機能の安定化や合併症予防に向けた看護の実際
    - (1) 全身状態の観察 (2) 急激に変化しやすく不安定な患者の安全に配慮した日常生活援助
7. 看護者として必要な態度
  - 1) 相手（患者・家族・医師・看護師・他職種）を尊重し、思いやる姿勢
    - (1) その場の状況にふさわしい行動 (2) 身だしなみ (3) 誠実な態度 (4) 最善の看護の提供を追求
  - 2) 学習に対しての主体的な取り組み
    - (1) 事前学習 (2) 自己の課題への取り組み (3) カンファレンス・振り返り会等の積極的な参加
    - (4) 期限の厳守 (5) 体調管理 (6) 批判的思考
  - 3) チームワーク
    - (1) 報告・連絡・相談 (2) チーム内外の相互の役割の調整 (3) 困難な状況時の応援要請
  - 4) 安全管理への配慮
    - (1) アサーティブなコミュニケーションがとれる (2) 医療事故防止のための意見交換
    - (3) 医療事故防止のための共有化 (4) 日常生活援助での事故防止の行動 (5) 個人情報の管理
  - 5) 自己の看護観の明確化
    - (1) 大切にしていきたい看護についての考えの表現

授業方法	臨地実習	授業場所	浜田医療センター
------	------	------	----------

評価方法	* 以下の内容を実習評価表（100%）に沿って評価を行う 看護実践・実習態度・出席状況、実習レポート
備考	